

奈良県次期スポーツ推進計画（素案）

計画改定にあたって

<背景>

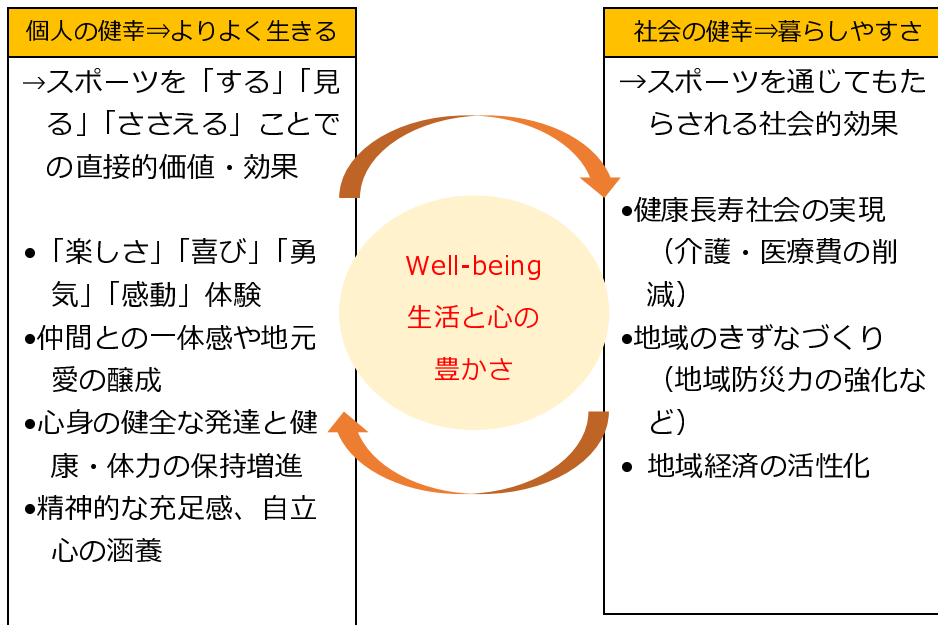
- ・ 現行「奈良県スポーツ推進計画」が 2022 年度で計画期間の満了を迎えます。
- ・ 2031 年（令和 13 年）に第 85 回国民スポーツ大会・第 30 回全国障害者スポーツ大会（以下：「国スポ・障スポ」）が開催されることとなり、奈良県のスポーツをさらに推進していく必要性が高まっています。
- ・ 国スポ・障スポ開催に向けた施設整備等、スポーツ推進の環境整備をはじめ、子どもから高齢者、障害のある人等だれもが生涯を通じて楽しむスポーツや健康づくりへの意識の高まり、競技力の向上、スポーツを通じた地域の活性化等に対し、取組を進めていくことが重要となっています。
- ・ また、少子高齢化や人口減少、デジタルトランスフォーメーションの進展、持続可能な社会づくり、アーバンスポーツへの関心の高まり、新型コロナウイルス感染拡大後のスポーツニーズの変化等、スポーツを取り巻く社会情勢が大きく変化しており、これらの変化に対応したスポーツを推進していくことが求められています。

<計画期間>

○2023 年（令和 5 年）～2027 年（令和 9 年）の 5 年間

奈良県スポーツ振興のビジョン

<スポーツのもつ価値・効果>



<スポーツ振興を通じて目指すところ>

「だれもが、いつでも、どこでもスポーツに親しめる環境づくり」に取り組む

スポーツのもつ価値・効果を最大限に活用

体を動かす

人を育てる

活動の場をつくる

「生き生きと安心して健やかに暮らせる健康長寿の奈良県」の実現

「持続可能で活力ある地域社会」の実現

基本理念

1. 心身の健康及び体力の向上を通じて**健康長寿**の奈良県を目指すため、全ての県民が生涯にわたり「楽しく」「自発的に」スポーツを**継続的に**親しむことができるよう推進します
 - ・ 運動・スポーツの習慣化と継続により、心と身体の健康の維持・増進を図ります
2. **子ども**の豊かな心・体・知性を**はぐくむ**ことができるようスポーツと遊びを推進します
 - ・ 遊びからスポーツへ展開する中で身につける体力や社会性などにより、子どもを発達段階に応じてはぐくみます
3. 県民に夢やあこがれ、勇気・感動・希望を与える**アスリート**が**輝き活躍**できるようなスポーツを推進します
 - ・ 県民に夢やあこがれ、勇気・感動を与える存在となるアスリートが活躍できる場や機会をつくります
4. **施設の整備**や適切な指導など安全・安心に配慮された**環境**のもとでスポーツを推進します
 - ・ 医科学との連携による怪我や障害などを防いだ指導や、身近な場所で安全・安心してスポーツに取り組める環境をつくります
5. **地域の交流**やきずなづくりが図られ**地域の活性化**に資するようスポーツを推進します
 - ・ 身近な場所で集まり運動・スポーツをすることを通じて地域内の交流ときずなを強めます
 - ・ 地域資源を活かしたスポーツイベント・大会の開催、ツーリズムの推進により地域内外の交流や活性化を図ります

<基本理念実現の参考指標>

- ・ 1 日合計 30 分以上の運動・スポーツを週 2 回以上実施している人の割合
- ・ 1 年間にスポーツをしない人の割合

柱1

健康増進のためのスポーツの推進
〈体を動かす〉

目標

県民一人ひとりが生涯にわたり、その関心、適性等に応じて自主的かつ主体的にスポーツに親しみ、心身の健康維持・向上を図ります

【施策】

1 県民参加の推進

- (1) 総合型地域スポーツクラブの連携強化
- (2) 総合型地域スポーツクラブの活動支援
- (3) 総合型地域スポーツクラブによる学校部活動の受け皿づくり
- (4) 県民が参加しスポーツを楽しむイベントの開催
- (5) 奈良マラソンの開催

2 子どものスポーツの推進

- (1) 幼児期のスポーツ（運動・遊び）の推進
- (2) 子どもの体力向上方策の推進
- (3) 学校部活動と地域スポーツの融合
- (4) 子どものスポーツ活動環境の充実

3 生涯スポーツの推進

- (1) 子育て世代、働き盛り世代のスポーツの推進
- (2) 女性がスポーツに取り組みやすい環境づくり
- (3) 高齢者のスポーツ推進

4 障害者スポーツの推進

- (1) スポーツを通じた共生社会の実現
- (2) スポーツに取り組む機会の充実
- (3) 障害のある人がスポーツを楽しむことができる環境づくり
- (4) 障害者スポーツを支える人材の育成

柱2

スポーツ振興を担う人材の育成
〈人を育てる〉

目標

スポーツの持つ価値や効果が発揮できるよう、アスリート、指導者、ボランティアなどのこれからの奈良県のスポーツ振興を担う人材を育成します

【施策】

1 人材の育成（コーディネート・マネジメント・指導者）

- (1) スポーツ指導者、マネジメント人材の確保、養成
- (2) 障害者スポーツ指導者等の養成

2 選手の育成

- (1) 競技団体を通じた競技力の向上
- (2) 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に向けたアスリートの育成
- (3) パラスポーツ選手の発掘・育成
- (4) アスリートとキッズ・ジュニアの交流を通じた競技力の向上

3 サポート体制の整備

- (1) スポーツボランティア等の人材育成
- (2) スポーツ顕彰制度の整備
- (3) 様々な団体が連携したスポーツマネジメント教育の展開
- (4) アスリートのセカンドキャリア形成の支援

4 健全性・安全性の確保

- (1) スポーツ団体のガバナンス・コンプライアンスの強化
- (2) スポーツインテグリティの推進

柱3

スポーツに親しめる環境づくりと地域の交流促進 及び地域の活性化
〈活動の場をつくる〉

目標

県民のだれもがスポーツに親しめる環境をつくります。また、県の豊かな自然環境や歴史文化資源を活用したスポーツイベントの開催等により、地域交流の促進、地域の活性化に寄与します

【施策】

1 施設の整備

- (1) 拠点的なスポーツ・健康づくり施設の整備
- (2) 民間活力の積極的な活用等の検討・推進
- (3) 既存スポーツ施設のファシリティマネジメントの推進
- (4) 身近な公共施設等の整備・活用
- (5) スポーツ施設のユニバーサルデザイン化の推進

2 情報発信

- (1) スポーツイベントや施設情報等に関する情報発信力の強化
- (2) デジタル技術を活かしたスポーツ DX の推進
- (3) 観光分野と連携したスポーツツーリズムに関する情報の発信

3 地域交流の促進

- (1) プロスポーツチーム等様々な主体と連携した地域との交流の機会づくり
- (2) スポーツキャンプやスポーツ合宿等の誘致
- (3) スポーツを通じた友好交流の促進

4 地域経済活性化

- (1) 自然、地勢、景観等、奈良の特性を活かしたスポーツの推進
- (2) 奈良県の魅力資源を活かしたスポーツツーリズムの推進
- (3) スポーツコミッション設立に向けた産官学等の連携方策の検討

5 国スポ・障スポ開催を契機としたスポーツ施策の展開

- (1) 市町村と連携した開催準備体制の構築
- (2) 国スポ・障スポによるレガシー創出に向けた取組検討
- (3) 国スポ・障スポ開催に向けた環境整備

柱1 健康増進のためのスポーツの推進〈体を動かす〉

【現状・課題】

- ・総合型地域スポーツクラブ支援センターや総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の運営、クラブアドバイザーの巡回指導により、県内で活動する総合型地域スポーツクラブをサポートし、多様な活動主体の確保につながっており、今後もこれらの活動を通じ、県内の総合型地域スポーツクラブとの連携強化や県内団体の活動支援や、人材育成を進めていく必要があります。
- ・ならスポーツフェスティバル、奈良マラソン、飛鳥 RUN×2 リレーマラソン大会等を開催し、幅広い世代の県民に参加してもらうことで、県民のスポーツに関する意識の高揚、スポーツの習慣化、体力向上、健康維持等につながることを目指しています。今後も参加者層の拡大を目指し、県民に親しまれるスポーツイベントとして、さらには観光振興への寄与等、地域の活性化につながるイベントとして、継続的に開催していくことが必要です。
- ・遊びやスポーツを通じて子どもたちの健康や社会性を高めることを目的としたプログラムを作成し、総合型地域スポーツクラブと連携し、幼稚園・保育所を拠点として普及促進に取り組んできました。今後も幼児期からの運動習慣形成に向けた取組を続けることが重要です。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大等の影響もあり、子どもの運動時間の減少や体力の低下がみられることから、学校体育等、様々なスポーツの機会を活かし、子どもの体力維持・向上を図る必要があります。
- ・子どものスポーツに対するあこがれや感動等、スポーツへの関心を高めるため、子どもとトップアスリートの交流を進めてきましたが、今後もプロチームや企業・大学等と連携し、子どもとアスリートのふれあいの機会を創出していくことが大切です。
- ・県立のスポーツ施設でのスポーツ教室の開催、女性スポーツクラブの活動支援等を通じ、子育て世代や働き盛り世代、女性、高齢者が気軽に参加できるスポーツの機会創出に努めてきており、今後も生涯に渡りスポーツや健康づくりに関心を持ち、自発的に体を動かすことができる環境を整えていくことが期待されています。
- ・障がいのある人とない人が参加できるスポーツイベント等を開催し、だれもが一緒にスポーツを楽しむことができる機会の創出に努めてきました。今後も、障害の有無にかかわらず、県民が交流できる機会をつくり、スポーツを通じた共生社会を目指します。

【施策指標】

| 施策指標（例） | |
|-------------------|---------------------------|
| ・総合型地域スポーツクラブの会員数 | ・法人格を有する総合型地域スポーツクラブの割合 |
| ○奈良マラソン参加者数<新規案> | ・スポーツイベントの参加者数 |
| ・子どもの体力合計点（小5、中2） | ・1日の総運動時間が60分以上の割合（小5、中2） |
| ・障害者スポーツ指導員数 | ・障害者スポーツ大会における参加者数 |

1 県民参加の促進

（1）総合型地域スポーツクラブの連携強化

- ・総合型地域スポーツクラブ支援センター、奈良県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の運営

（2）総合型地域スポーツクラブの活動支援

- ・クラブアドバイザーによる巡回指導
- ・総合型地域スポーツクラブのPRイベントの実施
- ・アシスタントマネージャー養成講習会の開催

（3）総合型地域スポーツクラブによる学校部活動の受け皿づくり

- ・総合型地域スポーツクラブによる中学校部活動の活動支援

（4）県民が参加しスポーツを楽しむイベントの開催

- ・ならスポーツフェスティバル、飛鳥 RUN×2 リレーマラソン大会の開催

（5）奈良マラソンの開催

- ・シンボルイベントとしての奈良マラソンの開催

2 子どものスポーツの推進

（1）幼児期のスポーツ（運動・遊び）の推進

- ・総合型地域スポーツクラブによる幼児向け運動・スポーツプログラムの策定・普及

（2）子どもの体力向上方策の推進

- ・子どもの体力テストの実施
- ・「まってる！花園」（ラグビー交流試合）の開催
- ・体力向上ステップアップミーティングの実施
- ・市町村対抗子ども駅伝大会の開催

（3）学校部活動と地域スポーツの融合

- ・県立高校・中学校の部活動へ、専門知識を有する地域人材の派遣

（4）子どものスポーツ活動環境の充実

- ・まほろば健康パーク機能強化

3 生涯スポーツの推進

（1）子育て世代、働き盛り世代のスポーツの推進

- ・橿原公苑ナイトランの実施
- ・ならスポーツフェスティバル、飛鳥 RUN×2 リレーマラソン大会、奈良マラソンの開催（再掲）

（2）女性がスポーツに取り組みやすい環境づくり

- ・女性スポーツクラブ等の活動支援
- ・女性が参加しやすいスポーツ教室の開催
- ・スポーツ施設のアメニティ向上等環境整備

（3）高齢者のスポーツ推進

- ・高齢者のスポーツ文化交流大会(シニア元気フェスタ)の開催
- ・スポーツ施設での健康づくり教室
- ・レクリエーション大会等の開催支援

4 障害者スポーツの推進

（1）スポーツを通じた共生社会の実現

- ・奈良県障害者軽スポーツ大会の開催

（2）スポーツに取り組む機会の充実

- ・奈良県障害者スポーツ大会の開催
- ・全国障害者スポーツ大会への選手団の派遣
- ・健康教室、障害者スポーツ教室の開催

（3）障害のある人がスポーツを楽しむことができる環境づくり

- ・クラブアドバイザーによる巡回指導（再掲）

（4）障害者スポーツを支える人材の育成

- ・障害者スポーツボランティア人材バンク・スポーツボランティア登録の運営
- ・障害者スポーツ指導員養成講習会の開催

柱2 スポーツ振興を担う人材の育成〈人を育てる〉

【現状・課題】

- ・県内のスポーツ推進委員をはじめ、指導的立場でスポーツ活動を支える人材の育成に向け、研修会や講習会等を継続的に開催してきました。今後も、地域スポーツ推進における指導者の役割を踏まえ、人材の育成や資質向上に努めていくことが重要です。
- ・スポーツを通じた共生社会の実現、障害者スポーツの推進に向け、障害の特性を理解するとともに、障害の種別や程度に応じた指導・助言を行うことができる人材の確保は不可欠であり、今後とも障害者スポーツの指導等ができる人材の育成に取り組むことが求められています。
- ・国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会等、様々なスポーツ大会で活躍できるスポーツ選手の育成のため、ジュニアアスリートの発掘・育成、トップアスリートと子どものふれあいの機会の創出等に取り組んできました。今後も、スポーツ選手の活動支援や競技団体への支援等に取り組むとともに、2031年に開催される国スポ・障スポでの奈良県選手団の飛躍につながるよう、県内スポーツ選手の競技力向上を目指した取組を展開していくことが必要です。
- ・スポーツ推進を「支える」担い手となるスポーツボランティアについて、登録制度を創設し、地域のスポーツ活動やイベント運営の支援の受け皿として運用を続けています。今後も、ボランティア登録制度の継続やスポーツボランティア等の活躍の場の創出等に努めることで、スポーツを支える人材の育成につなげていくことが課題となっています。
- ・スポーツ界において、指導者の暴力や不正な行為等により、プレイヤーの心や体を傷つけないよう、配慮が必要であり、スポーツマンシップに則った規範や行動が尊重される風土を形成していくことが求められています。

【施策指標】

| 施策指標（例） | |
|-------------------|----------------------|
| ・スポーツ指導者数 | ○スポーツボランティア登録者数<新規案> |
| ○研修会・講習会参加者数<新規案> | ○ガバナンスコード策定団体数<新規案> |
| ・国スポの総合成績 | ・全国大会1位の奈良県選手の人数・団体数 |

1 人材の育成（コーディネート・マネジメント・指導者）

（1）スポーツ指導者、マネジメント人材の確保、養成

- ・スポーツ推進員研修等補助事業
- ・スポーツ推進委員協議会の運営

（2）障害者スポーツ指導者等の養成

- ・障害者スポーツ指導員養成講習会の開催（再掲）
- ・障害者スポーツボランティア人材バンク・スポーツボランティア登録の運営（再掲）

2 選手の育成

（1）競技団体を通じた競技力の向上

- ・競技団体等の競技力向上への支援

（2）国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に向けたアスリートの育成

- ・国民スポーツ大会や全国障害者スポーツ大会への奈良県選手団の派遣

（3）パラスポーツ選手の発掘・育成

- ・パラリンピックタレントの発掘

（4）アスリートとキッズ・ジュニアの交流を通じた競技力の向上

- ・プロスポーツ選手を招いた少年少女スポーツ教室の開催（再掲）
- ・小学生・中学生・高校生を対象にしたラグビー大会の開催（再掲）

3 サポート体制の整備

（1）スポーツボランティア等の人材育成

- ・障害者スポーツボランティア人材バンク、スポーツボランティア登録制度の運営

（2）スポーツ顕彰制度の整備

- ・奈良県スポーツ特別功労賞、県民栄誉賞の授与

（3）様々な団体が連携したスポーツマネジメント教育の展開

- ・（案）大学等と連携したスポーツマネジメント展開の検討

（4）アスリートのセカンドキャリア形成の支援

- ・アスリートのセカンドキャリア支援方策の検討

4 健全性・安全性の確保

（1）スポーツ団体のガバナンス・コンプライアンスの強化

- ・県内スポーツ団体のガバナンスコード策定の促進

（2）スポーツインテグリティの推進

- ・クリーンでフェアなスポーツ推進の意識醸成
- ・アンチドーピング等の研修会の実施

柱3 スポーツに親しめる環境づくりと地域の交流促進及び地域の活性化〈活動の場をつくる〉

【現状・課題】

- ・2031（令和13）年に控えた国スポ開催に向けて、開・閉会式の会場となる主会場の整備に向けた検討を進めてきました。また、磯城郡の川西町、田原本町においては「ウェルネスタウン」をテーマとした大和平野中央プロジェクトが進められ、スポーツ施設を中心に健康増進機能をもったまちづくりに着手しています。さらに、まほろば健康パークでは、子どもから高齢者まで誰もが一緒に遊べるインクルーシブな空間創出に向けた機能強化に取り組んでいます。
- ・これら施設整備においては、多様化・高度化する県民ニーズに対応し、効率的・効果的なサービスが提供できるよう、民間活力の導入について検討するとともに、誰もが気軽に施設を利用できるよう、ユニバーサルデザインに配慮した施設づくりに取り組んでいくことが重要です。また、国スポ・障スポの会場となることが想定される施設については、ハード・ソフト両面からレガシー創出につながる拠点性を備えた施設づくりを進めていくことが求められています。
- ・県内のスポーツ施設については、老朽化が進む施設もみられることから、計画的な修繕・改修等により、施設の長寿命化を図る等、効果的・効率的な維持管理を図ることが必要です。
- ・奈良県では学校施設の一般開放や県有地の活用等、身近な公共空間を活かし、県民のスポーツ環境の充実に努めてきました。今後も、公共空間を活かし、県民が運動・スポーツや健康づくりに取り組む環境を整えていくことが期待されています。
- ・情報通信技術の進展が進む中、スポーツに関連する情報について、HPやパンフレット、SNS等を活用した発信に努めてきましたが、今後も、様々な媒体を活かした情報発信や発信を続けるデジタル技術を活かした新しいコンテンツの提供等に積極的に取り組んでいく必要があります。
- ・東京2020オリンピック・パラリンピック等大型のスポーツイベントが開催され、キャンプ地受け入れ等に取り組んできており、スポーツを通じた交流の機運の高まりを維持・継続し、レガシーの形成につなげていくことが重要です。また、奈良県を活動拠点とするスポーツチームやトップアスリートと県民との交流を続けていますが、新たなスポーツ施設整備においては、スポーツ観戦や地域との交流の機会を増やしていくことが課題となっています。
- ・奈良県の豊かな自然や歴史を活かしたウォーキングやサイクリング等の周遊型観光により、多くの人の来訪がみられ、南部・東部地域では、山岳地域の特性を活かした自転車レース等が定着しつつあります。今後も、県内の資源を活かしたスポーツイベントやスポーツツーリズムを一層進めていくため、様々な主体が連携を強め、スポーツを通じた地域活性化に取り組むことが必要です。
- ・2031年の国スポ開催に向け、主会場整備に向けた計画づくり等に取り組んでいますが、国スポ開催を契機に県民のスポーツ・健康づくりの機運を高めるとともに、地域の活性化につなげていくことが重要です。

【施策指標】

| 施策指標（例） | |
|---------------------------------------|----------------------|
| ・ 橿原公苑年間利用者数 | ○ 学校施設一般開放の利用者数<新規案> |
| ・ まほろば健康パーク年間利用者数 | ○ 「ここスポ」への情報掲載数<新規案> |
| ・ スポーツ合宿でスイムピア奈良を利用する人数 | ・ プロスポーツ等の試合数 |
| ○ 自転車レース、トレイル大会の参加者数<新規案> | |
| ○ 国スポ・障スポ開催に向け、県・市町村が連携した準備体制の構築<新規案> | |

1 施設の整備

- （1）拠点的なスポーツ・健康づくり施設の整備**
 - ・ 国スポ主会場整備推進
 - ・ 多世代対応等まほろば健康パークの機能強化
 - ・ 大和平野中央プロジェクトの一環となるスポーツ施設の整備推進
- （2）民間活力の積極的な活用の検討・推進**
 - ・ スポーツ施設整備におけるPFI等の民間活力導入手法の検討
 - ・ スポーツ施設へのネーミングライツの導入（佐藤薬品スタジアム、ジェイテクトアリーナ）
- （3）既存スポーツ施設のアシリティマネジメントの推進**
 - ・ 県内既存施設の計画的な改修・修繕等の推進
- （4）身近な公共施設等の整備・活用**
 - ・ 小・中学校、高校体育館施設の一般開放
 - ・ 奈良県サッカー協会へのフットボールセンター用地の貸与
- （5）スポーツ施設のユニバーサルデザイン化や環境配慮型施設整備の推進**
 - ・ スポーツ施設整備や改修時におけるユニバーサルデザイン化の推進、
 - ・ 環境へ配慮した施設の整備・改修等の推進

2 情報発信

- （1）スポーツイベントや施設情報等に関する情報発信力の強化**
 - ・ HPやSNSを活用したスポーツ関連情報の発信
 - ・ （案）スポーツ庁のスポーツ情報ポータルサイト「ここスポ」への情報掲載促進
- （2）デジタル技術を活かしたスポーツDXの推進**
 - ・ （案）先進的な通信技術を活かしたスポーツ・健康づくりの機会創出の検討
 - ・ 橿原公苑等スポーツ施設の予約システムの再構築
- （3）観光分野と連携したスポーツツーリズムに関する情報の発信**
 - ・ サイクリング、ウォーキング等周遊型観光ルート等の情報発信

3 地域交流の促進

- （1）プロスポーツチーム等様々な主体と連携した地域との交流の機会づくり**
 - ・ プロスポーツの試合や大会等の誘致
 - ・ プロスポーツの試合への子どもたちの観戦招致
 - ・ トップアスリート等と連携したスポーツ教室の開催
- （2）スポーツキャンプやスポーツ合宿等の誘致**
 - ・ 奥大和におけるスポーツメッカづくり
 - ・ ワールドマスターズゲームズ2027関西の開催に向けたスポーツ合宿等の誘致
- （3）スポーツを通じた友好交流の促進**
 - ・ 東京2020オリンピック・パラリンピックキャンプ地招致やホストタウン交流等のネットワークを活かした交流の推進

4 地域経済活性化

(1) 自然、地勢、景観等、奈良の特性を活かしたスポーツの推進

- ・山間部の自然環境を活かした自転車レースやトレイルラン大会の開催

(2) 奈良県の魅力資源を活かしたスポーツツーリズムの推進

- ・サイクリング、ウォーキング等県内周遊型観光につながるスポーツツーリズムの展開
- ・京奈和自転車道等の整備
- ・歴史・文化を活かした新たなスポーツツーリズムコンテンツの検討

(3) スポーツコミッション設立に向けた産官学等の連携方策の検討

- ・(案) 地域の活性化につながるスポーツコミッション設立に向けた検討推進

5 国スポ・障スポ開催を契機としたスポーツ施策の展開

(1) 市町村と連携した開催準備体制の構築

- ・県・市町村担当者によるプロジェクトチームの設立

(2) 国スポ・障スポによるレガシー創出に向けた取組検討

- ・国スポ・障スポ開催に向けた機運醸成
- ・国スポ・障スポ開催準備アクションプランの策定

(3) 国スポ・障スポ開催に向けた環境整備

- ・主会場をはじめとする施設整備の推進
- ・競技会場の選定